

とこちゃんと言いました。≡≡

さすらいみちお選



杜胡堂出版

とこちゃんが言いました。ミニ

さすらいみちお選

これは、『とこちゃん名言集』から、選ばれたものである。番号は、そのまま踏襲した。また、原文そのままでは、読者の理解が難しいと思われた箇所や漢字の表記など、多少原本とは異なる。しかしながら、十分にとこちゃん哲学を知り得ると思います。

とこちゃんが言いました。

305. 日本人の西洋びいきは、全体的なものだ。1986/3/27

308. お金は天から降ってくるものではなく、人から人の手に渡っていくものだ。その流れの中に身を投ずることが、必要である。1986/3/27

215. 自分の才能、能力を究極まで、十分に、本当に伸ばしたいと思っている人でもそれを実際にやってみた人は少ないし、その努力をしない人のほうがはるかに多い。それ以上に、自分の宝物が、何であるかを、他者との比較において、社会的相対性の上において、知っている人はもっと少ない。1988/3/23

63. 歴史は逆進しないし、飛び越したりもしない。1989/1/7

192. 暗号は、色、形、音、文字に化ける。形式は後から与えられるに過ぎない。1986/4/17

188. 本物には、本物の技が必要だ。すべての人に示しうるプロの腕前だ。それが、真の勝者だ。1986/10/29

187. すべてのものから解放されてしまうことはない。歴史は単なる流れの連続ではなくて、真実の鏡だと思う。何かにならなければならないのではなくて、一度の疑いは、永遠の疑い、thinking. 確信には、責任が伴う。信じてもないものに、責任なんて取れない。それをどう見るか、見たいかの問題ぐらいのものだ。1986/10/29

168. 「本当の出発点を持ち得なかった人に、goal など存在し得るはずがない。」 -杜胡- 1984/4/20

18. 問題について、質問の仕方がまずかったのではないか。また、はっきりした問いとして提出できていただろうか。そうでないなら、いくら考えても考えていることにはならない。問いがあるから答えがあるものであり、答えがあるから問いがあるのではない。1985/2/22

23. 失敗があるから、成功があるのであり、あくまでも無に対しての有はあるのだよ。1985/2/17

とこちゃんが言いました。

313. 私は、私として、よく生きたい。言いたいことは全部書くだけだ。5枚～10枚ぐらいなら、一気にやるはずだ。1998/11/13

296. それが売られるかどうかは、それ以前にそれを作り上げられるかという問題にかかっている。作りもしないのにそれを考えることは、意味がないことです。1995/1/12～14

293. 1945 から 1952 の時期に名目上（観念上）転換したことになっているが、日本人すべてのアメリカ人化計画（陰謀）の完了を完全に見るのが、そこで種を植えられて、2009 には花が咲き、そして、2029 に実がなる。

米語を国語として、日本語を第二言語化するのが 2029 年くらい頃で、日本語と英語の地位が逆転するかもしれない。イギリス領時代の香港のように、英語が十分自由にならないと、高い地位につけなくなるかも。国家の上層部がアメリカに直接支配されて、直結しなければならなくなるから、そうなる可能性が高い。日本人は、日本語を捨てる可能性があると思われます。急に捨てるのではなく、割合が、2029 年辺りで逆転するのではないかと私は見ている。1999/6/19

290. 学校教育と産業社会が全く連動していないとは考えられない。すべて学校にいる人々は、遠からず、産業に導入されることが決まっている。約 14 年間子供たちに、色々なことをやらせてみて、その成績やら、取り組みやら、ときには産業職務を体験させながら、適性を調べているとも言える。1995/6/29

289. 当然知らないことのほうが多く、偉そうなことは、言わないことにするのが一番です。直接関係していたことやすることに対しては、どうしても、感情的な好き嫌いが入ってくる。単なる個人の弁解なら誰も聞く耳を持っているとは思わない。どうしても、自分もどこかで正当化してしまいたい部分もあろうし、全部ではないにしても、相手方の非であると思いたいと思っているかもしれない。1995/5/16

272. 問題があると思うか、思わないかは個人の勝手。ないと思えば、立ち止まらず、あると思えば、立ち止まるしかない。しかし、課題からは、逃れられない。どのレベルのことであっても、何であるかという特定は、必要なく、課題からは、逃れることができないと思われる。ある人は、物を運び、ある人は、物を売るだろう。…1995/4/16

206. 実存主義が何であるか、ニーチェが誰であるかをいちいち問題にしなければならないだろうか。必要ないと思います。まさに今の状況において存在していると思われる問題は別にある。人々が生きて見せているドラマの中にいっぱいある。これら全てに対して見解と意見を申し述べているときに、私は存在していると言える。そのままを語るのが、意味です。未来に対してだけでなく、今生きている人々に対しても、崇高なものであると思います。デカルトが何をしようが、関係ないのです。1992/9/7

202. 哲人は、会社・組織には住まない。会社や役所にいるのは、労働者とその管理者であって、「考えすぎ

る」人ではない。答申 1996/12/12

78. すべて理念・目的や最終目的地あつての判断で、それなくしての判定は結局意味を持つことができなかつた。 1996/12/11

46. まずは、成り立っていること。やろうとしていることが、一つで全部を満足させるようなものは存在していないので、容易にはいかない。何かが、60年代に、70年代に、そして、80年代にわだかまっているようだ。特に70年代に強く留意しなければならない。1992/12/11

とこちゃんが言いました。

319. 原発の裏は『黒』い。 2012/7/20

311. 最初から、失敗するとわかりきっているものの方には行かない。近づかないようにするだけでも成功する確率は上げられる。 2001/8/31

294. 嫌いなことを好きになることは難しく、好きなものは理由など要らない。

性格も多少は、人為的に変えられるが、四六時中、正反対ではいられまい。程度に限度というものがある。能力面では、よほどかけ離れていない限り、努力で cover できる面も多く、すぐに諦めるには及ばない。何もしない前からその程度を知ることは難しく、とにかく、1回は体験した上でないと、なんとも言えない。

これにもうひとつ価値観という概念を加えることができる。自分として、価値あるものとしているものも、変わりにくく、変え難い。 2007/1/29

291. 思いついたら、3日はやれ。 2011/10/21

281. 確かに用心すると、日本中どこにも原発は建てられませんよね。とりあえずいつかは、大地震が来ると思いますが、どこが震央になるか分かりませんし、どれほどのものになるかとなると、それも良くは、分かりませんよね。一応、適当にやっていたら、それを否定するのは、難しいですよ。確かに原発は何かが起こってしまうと、超大事（ちょうおおごと）で、損害を補償できませんよね。 2007/10/26

279. ねまった労働はすべて断る。

それに意味がなくても、

私は私の仕事しかしない。

その完成のため以外に生きない。

ねまった労働はすべて断る。 2002/5/17

277. 色々好きでもない労働のために、話したくもないことをいちいち聞かれるより、私は、私の仕事とともに去りたい。その結果によって（おいて）、最後の審判を受ける。結果はどうであれ、その時みんな分かる。それでいいじゃないですか。慌てなくても、その時は必ず来る。 2002/5/17

273. 目標と目的意識の有り様がまず第一であると、言っている。 2000/5/4

242. 聞く耳を持っていないとわかりきっている人に説教なんかしません。私はプロの説教師じゃないので。 2013/12/25

367. 問題は分かるためにある。しかし、あまりにも多すぎて問題がすべてになると、そうも言っていられない。何が問題か、それが問題だ。 2015/1/18

あとがき

『とこちゃん名言集』は、個人的なものなので、私事が多いのですが、少しは人様にも汎用性のあるものがあると思い、発表させていただきました。古より、やれ「考えすぎる」だの、「哲人」だのと罵られてきましたが、確かに私は、そのようです。

あははははは、

貴様何奴だ。

7つの顔の人ですよ。

あるときは、さすらいの文豪、さすらいみちお、

あるときは、コンデジの覇者、暁ただし、

あるときは、哲人隠士杜胡（またの名を杜胡道士）、

またあるときは、とことこ歩くので、とこちゃん、

しかして、その実態は、

杜胡堂出版のオヤジ、齊藤カズおだ。

とこちゃんと言いました。ミニ

<http://p.booklog.jp/book/108622>

著者：とこちゃん

選者：さすらいみちお

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokochan3/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108622>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108622>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ